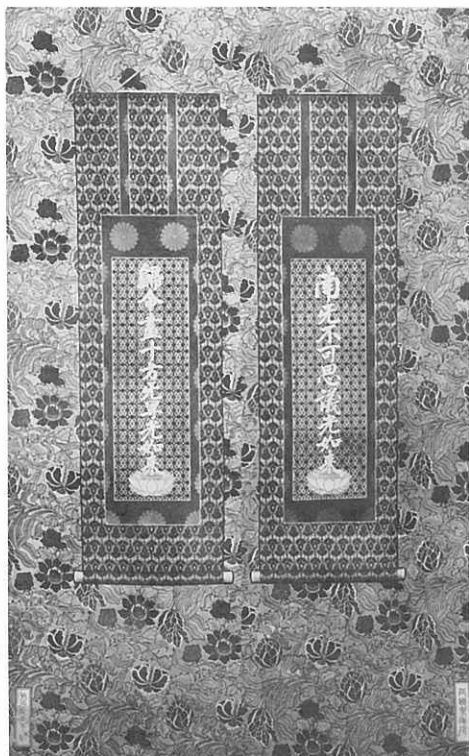


# 佐賀県立博物館報 №38

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24) 3947



鍋島更紗は慶長初年大陸帰陣の折藩主鍋島直茂に伴われて来朝した高麗の人九山道清によって創始されたとされる。大正はじめまで一子相伝の秘法が伝承されてきた。

この鍋島更紗掛軸は江頭家の菩提寺である佐賀市東佐賀町の正教寺で見発見されたものである。

「南無不可思議光如来」(九字名号)

「掃命尽十方無碍光如来」(十字名号)はともに如来のはたらきを示している。

右下隅に「江頭家伝染」、左下隅に「明治三十九年丙春」とある。

鍋島更紗の最後の技術伝承者であった江頭佐八(1844~1914)が63才の時に製作し、奉納したものである。

背景にインド風の大唐花模様を配し、その上に二幅対の掛軸を三種の更紗文様で一枚の布に染め分けている。名号の部分は形摺の際に紙をひいて白く抜き、蓮弁は手描きによる。

鍋島更紗の代表的な作品の一つである。  
121.7×193

目次	鍋島更紗	1
	「鍋島更紗・段通—日本の更紗・世界の更紗・段通をたずねて」開催要項・鍋島段通	2
	鍋島段通・更紗の代表的文様	3
	九山道清一族墓石と熊山の石碑	4
	段通碑・古賀清右衛門過去帖	5
	博物館日誌・行事のお知らせ	6

## 「鍋島更紗・段通—日本の更紗

世界の更紗・段通をたずねて」

### 開催要項

名称：「鍋島更紗・段通—日本の更紗、世界の更紗  
段通をたずねて」

主旨：肥前には、古くより唐津系の陶器、有田系の磁器、肥前刀、鍋島更紗、鍋島段通、佐賀錦、佐賀ガラスなどの伝統工芸がみられる。

更紗は、インドに始まるといわれ、西はベルシャ、ヨーロッパ、東は東南アジア、中国、日本へと伝わり、各国でそれぞれの更紗文様を生んだ。

日本では、室町末頃より江戸時代にわたって伝えられ、鍋島、壘、天草、江戸、長崎などの更紗を生んだ。なかでも鍋島更紗は慶長年間に伝来したものであり、技術文様の面において特色がある。

また、鍋島段通は、元禄年間に始まったといわれ、藩政時代より「扇町紋氈」と呼ばれ親しまれてきた。

このたび、当館ではこのような染織の歴史をもつ本県で、郷土の更紗・段通を含めて日本および世界の更紗・段通を展示し、それらの歴史と製作技法の特質、そして美術工芸上の価値を探究するものである。

主催：佐賀県立博物館

会場：佐賀県立博物館

〒840 佐賀市内1丁目15-23

TEL 0952-04-3947

会期：昭和52年9月17日(土)～10月16日(前)30日間

(会期中無休)

講演会の開催：会期中に講演会を開催予定

図録の発行：展示資料の図録を発行する。

観覧料

	大人	大・高生	中・小生
個人	300円	150円	80円
団体	200円	100円	50円

### 展示内容

#### 1. 更紗の部 約270点

鍋島更紗、天草更紗他各地の和更紗、インド更紗、ジャワ更紗、シャム更紗他諸外国の古渡更紗参考資料、更紗製帖、秘伝書、見本帖、型紙他道具等製作技術資料、更紗文様磁器、版画

#### 2. 段通の部 約95点

鍋島段通

中国段通、トルコ段通他世界各国の段通製作技術資料



鍋島段通 蟹牡丹唐草文様 91×191  
江戸末～明治初期

鍋島段通・更紗代表的文様

鍋島更紗見本帖 江戸後期 227×34



27番 鳳凰草花文様



31番 大唐花文様



32番 鳳凰牡丹文様

鍋島段通



蟹牡丹文様 190×93  
明治初期



唐草芍薬文様 189×92  
明治初期



唐草花文様 189×96  
明治初期



葉隠聞書382 鍋島直茂・朝鮮陣凱旋の時陶工を伴ひ歸りて有田焼を創む

有田皿山は直茂公高麗國より御歸朝の時、日本の寶になさるべくと候て、焼物上手頭6,7人召連れられ候。金立山に召置かれ、焼物仕り候。其の後伊萬里の内、藤河内山に罷移り、焼物仕り候。それより日本人見習ひ、伊萬里有田方々に罷成り候由。

熊山の石碑と九山道清について

佐賀市金立町大門の昔の地名を熊山と呼び、この地において、鍋島直茂が文祿慶長の役に伴ひ歸った帰化陶工によって焼物がつくられた(葉隠聞書による)。しかしその内の一人がこの地で死去した(御用唐人町荒物唐屋職御由緒書による)。大門にある熊山の石碑のうち、死亡した帰化陶工の墓碑が「写真の左のものである。右の碑は「逆修朝鮮国工政大王之孫金公之立石」とあって通修碑である。その建立は寛永6年8月、道清禪定門とその妻妙清禪尼によってなされている。

鍋島更紗の始祖といわれる九山道清と道清禪定門は同一人物と考えられる。

人生の諦(よわい)半ばに達した九山道清夫妻が、同時に帰化した友の死によって、人生の無情を感じ逆修碑を建立して、自分の後生を祈ったのではなかろうか。

◎ 鍋島段通



段通碑 (佐賀市嘉瀬町扇町苗蓮寺境内)



古賀清右衛門の過去帖 (元禄十二年七月發)

扇町紋能之名于世也久矣而製之者蓋自古賀清右衛門始云清右衛門佐賀扇町之家世事農其耕僅有聲澤至外國者自言習織也清右衛門試機織之美乃親學而盡得其方清右衛門復授之十有二家織之國王鍋島候而嘉之各賜慶米若干以為世業然禁民間賣買以故世未多有焉明治以後佐賀漸行逐大見賣重干世人等購之工人始不能給其需扇町紋能之名於是平益著矣而清右衛門之事世莫有知者也請右衛門元禄十二年死後百八十年明治十七年六月佐賀縣令鎌田君追嘉其興産之功特賜金若干以旌之清右衛門子孫既總扇町工人相謀欲紀其功伝其業于後余為叙之如此云 佐賀家永恭種撰

段通碑

段通碑について

佐賀市嘉瀬町扇町、苗蓮寺境内に所在する碑文によれば、扇町紋能と呼ばれ江戸時代中期元禄年間、古賀清右衛門がはじめたといわれている。

中国段通の手法によってつくられており、草木染による文様は独特な味があり、藩制時代は専ら御用品として生産されていた。

初代清右衛門は元禄12年7月に歿しているが、子孫も幾代かは清右衛門を世襲したらしい。この碑は明治17年の建立であるが数少ない段通資料の一つである。

## 博物館日誌

7月30日	池田初郎氏来館
7月31日	池田幸太郎遺作展 終了(総観覧者数2754名) 国学院大学講師 麻生優氏来館
8月3日	宮崎市婦人園内研修11名来館
8月4日	江頭民雄氏夫妻来館
8月7日	前期常設展終了(総観覧者数9,681名)
8月8日	梧竹生誕150年記念展の準備と館内工事のため休館(19日まで)
8月17日	多摩美術大学客員教授山辺知行氏来館
8月19日	鍋島直康氏来館
8月20日	「梧竹生誕150年記念展」開場 「梧竹生誕150年記念展」記念講演会「梧竹の生涯」 講師 中林梧竹研究家 佐々木盛行氏

## 行事のお知らせ

修学旅行等の計画に博物館の見学を折り込んで下さい。

常		設		展	
佐賀県の歴史と文化展	53年 11月13日～1月25日	大人 50(30) 大・高生 30(20) 中・小生 20(10)		佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての、理解を深めるために自然史、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展覧する。	

(月曜・祝日の翌日休館) 団体は20名以上、( )内は団体料金

企			画			展		
展覧会名	会 期	観 覧 料 ( )内は団体料金	展覧会名	会 期	観 覧 料 ( )内は団体料金	展覧会名	会 期	観 覧 料 ( )内は団体料金
理科作品展	9月6日～9月14日 10日は休み	無 料	佐賀県学童美術展	12月10日～12月15日 会期中無休	無 料			
鍋島更紗・段通 <small>日本の歴史・文化の発展・日蓮とつながり</small>	9月17日～10月16日 会期中無休	大人 300(200) 大・高生 150(100) 中・小生 80(50)	教職員美術展	12月18日～12月23日 会期中無休	無 料			
佐賀県美術展	10月20日～11月6日 会期中無休	大人 150(100) 大・高生 100(70) 中・小生 50(30)	佐賀県高等学校書道展	53年 1月14日～1月20日 会期中無休	無 料			
大学総合美術展	11月9日～11月12日 会期中無休	無 料	書 初 展	1月22日～1月28日 会期中無休	無 料			
九州グラフィック デザイン展	11月14日～11月20日 会期中無休	無 料	二 科 展	2月4日～2月19日 会期中無休	大人 300(250) 大・高生 200(150) 中・小生 100(50)			
勤労者美術展	11月23日～11月28日 会期中無休	無 料	古代のくらしのなかの器展 —九州の発生・古墳時代—	2月26日～3月26日 会期中無休	大人 200(150) 大・高生 100(50) 中・小生 50(30)			
佐賀県高等学校美術展	12月1日～12月6日 会期中無休	無 料	佐賀大学卒業制作展	3月18日～3月21日 会期中無休	無 料			

古代のくらしのなかの器展の日程を都合により2月26日～3月26日に変更いたします。

## ●人事異動

◆昭和52年8月31日付

退職

館長 大園 弘

◆昭和52年9月1日付

新任

館長 松崎利彦(保健環境部次長より)

博物館報	第38号
発行年月日	昭和52年9月1日
編 集	松 崎 利 彦
発 行	佐賀市城内1丁目15-23 佐賀県立博物館
印 刷	日之出印刷株式会社